

沖永良部島における外国人労働をめぐる現状と将来展望

西 村 知

ニシムラ・ジョアン・テハダ

スリット・アロンドラ・ゲイル・トレス

日 高 優 介

Current Status and Future Prospects of Foreign Labor on Okinoerabu Island

NISHIMURA Satoru, Kagoshima University, Japan

NISHIMURA Jo-Ann Tejada, Kagoshima University, Japan

SULIT Alondra Gayle Torres, Polytechnic University of the Philippines, the Philippines

HIDAKA Yusuke, Kagoshima University, Japan

Abstract

In many remote islands of Japan, it is difficult to maintain the local economy and society due to the declining population and aging population. Under these circumstances, the national government and local governments promote migration and create an environment where foreigners can play an active role. This paper aims to explain the current situation regarding foreign workers and show the future perspectives in which foreigners and Japanese islanders can come up with positive co-creation for the development of local society and economy. This study takes Okinoerabu Island in Kagoshima Prefecture as an example. It concludes that Vietnamese trainees need more communication with islanders, and the local Filipinos are contributing a lot to the local economy and some are engaged in diaspora businesses.

Keywords: remote islands, foreign labor, Okinoerabu Island, the Philippines, diaspora, Vietnam

1. 問題の所在

多くの日本の離島では、人口減少、高齢化によって、地域経済、社会の維持が困難になっている。このような状況で、国や各自治体は、移住の促進や外国人が活躍できる環境作りを行っている。後者は、具体的には、技能実習生制度、特定技能制度の拡充などを意味する。また、永住ビザ、定住ビザを持つ外国人の役割も期待されている。本稿の目的は、外国人が離島の地域経済における労働者としての実態と将来展望を明らかにすることである。本研究は、この目的を果たすために、鹿児島県の沖永良部島和泊町と知名町を事例として、関係者へ外国人労働をめぐる問題について聞き取

り調査を行った。

沖永良部島和泊町を調査地とする理由は、沖永良部島が、外国人人口の割合において、鹿児島県では、特に高い島であるからである。表1が示すように、2020年10月現在で、鹿児島県の離島の中で、沖永良部島の外国人人口は、最大であった。また、徳之島や喜界島の外国人の大半が、フィリピン人であるのに対して、沖永良部島は、フィリピン人以外に、ベトナム人、中国人が一定数、居住している。表2が示すように、鹿児島県の1000人当たりの外国人人口は、7.8人で、全国の21.8人と比較するとかなり低い。しかし、和泊町の値は、17.5人であり、鹿児島市の5.8人の3倍以上の水準を示し、鹿児島県内では、最上位のグループに属する。特に、和泊町は、今後の鹿児島県、離島における外国人労働の導入などの国際化をめぐる経済社会の姿を先取りしていると考えられる。

表1 鹿児島県離島における外国人居住者の出身国（2020年10月）

		ベトナム	中国	フィリピン	その他	合計	
鹿児島 県の 離島	種子島	34	20	19	42	115	
	屋久島	12	16	32	48	108	
	奄美 群島	奄美大島	15	27	19	91	152
		徳之島	0	0	78	23	101
		喜界島	0	0	35	8	43
		沖永良部島	79	13	64	13	169
	鹿児島市	1,093	825	279	1,107	3,304	

出所：法務省出入国在留管理局

表2 沖永良部島、鹿児島市、鹿児島県、全国の外国人人口（2020年10月）

	人口	外国人人口	人口1000人当たりの外国人人口
沖永良部島	11,996	169	14.1
和泊町	6,246	109	17.5
知名町	5,750	60	10.4
鹿児島市	593,128	3,304	5.6
鹿児島県	1,601,711	12,416	7.8
全国	126,146,099	2,747,137	21.8

出所：2020年国勢調査

2. 沖永良部島和泊町と知名町の人口・産業・外国人居住者

沖永良部島は、沖縄本島の北東部に位置する鹿児島県奄美群島に属し、東部の和泊町と西部の知名町で構成される（図1参照）。『2020年国勢調査』によると、和泊町の人口は、令和2度（2020年度）10月時点で、6,246人、知名町は、5,750人であった。表3は、『農林水産省「わがマチ・わがムラ」』のホームページによる2町の農業についてまとめたものである。和泊町の主な産業は、農業であり、ばれいしょ、花き類、畜産、さとうきび生産が主である。花の栽培は、明治32年（1900年）から始まり、海外にも輸出されている。ユリ、グラジオラス、ソリダコ、菊などが生産されている（『和泊町町勢要覧2021』）。知名町では、やはり、ばれいしょが生産額の第一位で、さとうきび、

花き類、畜産と続く。二町を比較すると、和泊町のほうが知名町よりも花き生産額が格段と高い。沖永良部島では、安定的な用水の確保による農業生産性の向上や農業経営の安定に役立てる目的のために、国営沖永良部農業水利事業（通称・地下ダム事業）が進められている（『南海日日新聞』2020年05月22日）。

沖永良部島では、年間平均気温22度という温暖な気候に恵まれ四季を通じて熱帯、亜熱帯の花々が咲き、鍾乳洞・昇竜洞をはじめ200～300の大鍾乳洞群が見られ、「花と鍾乳洞の島」の異名をとっており、観光業も盛んである（一般社団法人 おきのえらぶ島観光協会）。

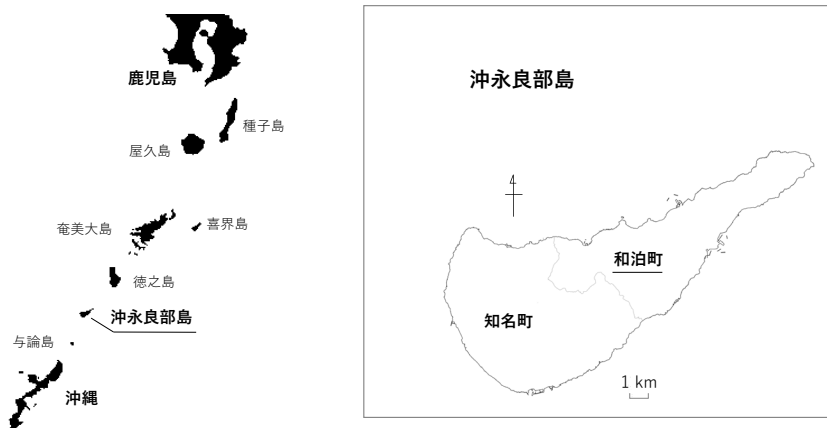


図1 沖永良部島の位置

出所：国土交通省国土地理院『地理院地図（電子国土 Web）』により筆者作成

表3 2020年の沖永良部島（和泊町、知名町）の農業の概要

	和泊町		知名町	
人口	6,246		5,750	
農業に60日以上従事した人口	1,099		961	
耕地面積 (ha)	2,320 ha		2,110 ha	
農業産出額	イモ類 (主にばれいしょ)	240	イモ類 (主にばれいしょ)	235
	花卉類	233	工芸作物 (主にさとうきび)	155
	畜産	156	花卉類	62
	工芸作物 (主にさとうきび)	109	畜産	55
	野菜	89	野菜	21
	果実	4	果実	2
		831	合計	531

出所：農林水産省「わがマチ・わがムラ」<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/>

和泊町に居住する外国人の大半は、ベトナム人、フィリピン人、中国人である。図2は、2014年から2021年までの12月末における和泊町の外国人人口の推移を示したものである。2021年時点では、ベトナム人、62人、フィリピン人、22人、中国人が7人、その他の国籍の外国人は、韓国人、米国人、インドネシア人、ネパール人など、計7人であった。ベトナム人の多くは、技能実習生で

ある。特定技能外国人労働者も少数であるが存在する。特定技能制度が開始されたのが、2019年であること（公益財団法人国際人材協力機構）、2020年初頭からのコロナ感染症の拡大により外国人の入国が困難となったことにより、和泊町のみならず、全国的にも受入れ人数は、現時点では少数であるが、今後、増加することが予想される。和泊町でのベトナム人技能実習生の島への導入は、2015年に始まり徐々に増加している。技能実習生の中心は、かつては、中国人であったが、現在では、ベトナム人に置き換えられる形となっている。和泊町の中国人の人口は、2014年の57人から、2021年の7人に右下がり急激に減少している。フィリピン人の人口は、同期間に、20人から24人の間を、安定的に推移している。外国人人口の総数は、2015年から2019年に、主にベトナム人技能実習生の受け入れによって、右上がり増加したが、コロナ感染症の拡大の影響があり、2020年、2021年は、減少した。

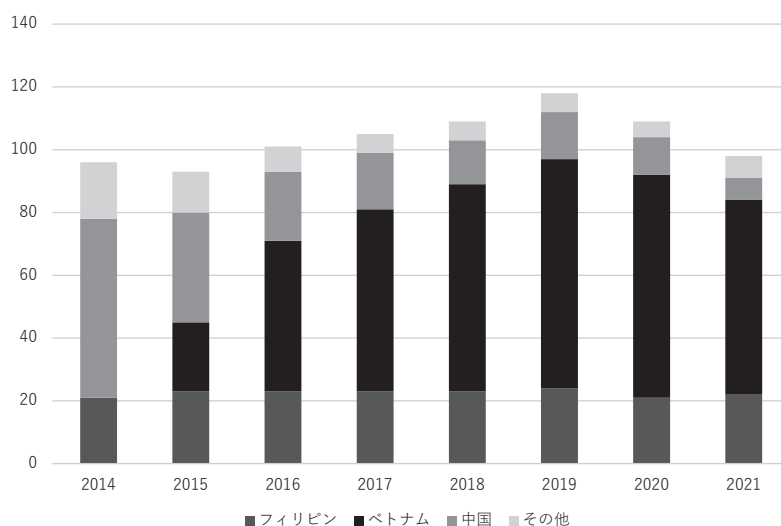


図2 和泊町の国籍別外国人人口の推移（2014年～2021年）単位：人
出所：法務省出入国在留管理局

知名町に居住する外国人の大半も、フィリピン人、ベトナム人、中国人である。図3は、2014年から2021年までの12月末における知名町の外国人人口の推移を示したものである。2021年時点では、フィリピン人、44人、ベトナム人、7人、中国人が6人、その他の国籍の外国人は、韓国人、米国人など、計6人であった。知名町の外国人の中心は、日本人男性の配偶者を持つフィリピン人女性である。フィリピン人の人口は、2014年から2021年まで44人から46人の間を推移しており、ほぼ変化していない。この傾向は、和泊町と知名町で共通している。

沖永良部島における外国人労働をめぐる現状と将来展望

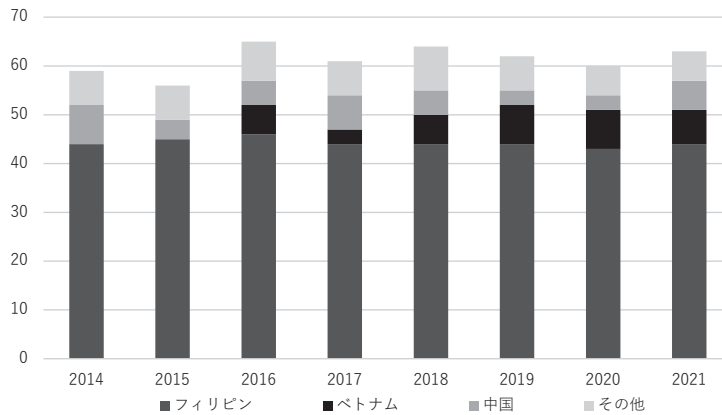


図3 知名町の外国人人口推移 (2014年-2021年) 単位：人

出所：法務省出入国在留管理局

表4は、2021年の和泊町、知名町の国籍別の外国人人口を示している。ベトナム人の大半が、和泊町に居住していること、フィリピン人は和泊町より知名町に多く居住していることがわかる。

表4 鹿児島県離島における外国人居住者の出身国 (2021年12月)

	ベトナム	フィリピン	中国	その他	合計
沖永良部島	69	66	13	13	161
和泊町	62	22	7	7	98
知名町	7	44	6	6	63

出所：法務省出入国在留管理局

表5は、和泊町役場への聞き取り調査を元にして作成したものである。2021年10月18日現在で、和泊町の技能実習生は65人で、特定技能外国人労働者は、1人であった。技能実習生も特技技能外国人労働者も、国籍はすべてベトナムであった。受入れ事業主は、18の事業所であり、ユリ、フリージアなどの花き生産が、16事業所、キクラゲなどのキノコ生産が、2事業所であった。ベトナム人労働者が、島の基幹産業の一つである花き栽培に大きく貢献している。受入れ事業所の外国人労働者受入れ規模は、比較的、小さい。18の事業所のうち、12が3人以下の外国人を受入れている。受入れ人数が最も多いのは、12名である。和泊町の外国人技能実習生、特定技能労働者の大半は、大規模な商業的アグリビジネスの労働者というよりも家族労働を補足する労働者と位置づけることができる。

表5 和泊町の技能実習生・特定技能労働者数(人) *2021年10月18日現在

	ベトナム	その他	合計
外国人技能実習生	65	0	65
特定技能外国人労働者	1	0	1
合計	66	0	66

出所：和泊町役場の資料を元に筆者作成

表6 和泊町の規模（外国人実習生・特定技能労働者数）別
技能実習生受入れ事業主数 *2021年10月18日現在

	1～3人	4～6人	7～9人	10～12人	合計
花き (ユリ、フリージアなど)	10	4	1	1	16
きのこ (キクラゲ)	2	0	0	0	2
合計	12	4	1	1	18

出所：和泊町役場の資料を元に筆者作成

島のフィリピン人の多くは女性であり、日本人男性の配偶者である。配偶者ビザを保有する彼女らは、就業活動に一切の制限がない（厚生労働省 a）。業種、職の数に制限がないために、島の労働不足の解消に貢献することができる。後述するように、フィリピン人島民の多くが、複数の仕事を掛け持ちしている。また、彼らの子供達の中には、成人年齢を迎えており、フィリピンの血を引く島民が現れてきている。育った環境により程度の差はあるが、日本、外国の文化の両方を理解できる彼らの存在は、島、町のグローバル化を見据えた経済社会の発展において重要な存在であるといえる。

中国人の島民に関しては、役場の職員への聞き取り調査によって、かつては、大半が技能実習生であったことがわかった。現在の彼らの就労状況などに関しては、今後の調査によって明らかにしていきたい。中国人技能実習生の減少の背景、配偶者などとして島に残った中国人島民とフィリピン人島民との労働市場における役割の違いなどに焦点を当てた調査を行う予定である。

3. 沖永良部島における外国人労働者の現状

沖永良部島の外国人労働者の現状と課題を把握するために、2022年1月30日、1月31日に、和泊町において、役場職員、ベトナム人労働者の現状に詳しいライターの水嶋健氏にインタビュー調査を行った。フィリピン人の労働に関しては、2022年12月11日より15日まで、島に居住するフィリピン人に対して、和泊町、知名町において聞き取り調査を行った。

1) ベトナム人技能実習生

朝日新聞が運営するオンライン上のニュースサイト「Withnews」で、衝撃的なタイトルの記事が、発表された。「実習生が逃げていく島」町民があえて監視をおかない「深い理由」である（『Withnews』2018年11月19日）。この記事によると、島では実習生の失踪が多く発生しており、受入れ農家は、失踪する実習生を働かせる人々がいる限り、沖永良部島は、日本での労働の入り口として利用されるのみと考えている。技能実習生の賃金は、各県の最低賃金以上でなくてはならないが、鹿児島県の最低賃金は他県に比べて低いのが実情である。令和3年（2021年）10月に制定され

た最低賃金の全国平均は、930円、鹿児島県は、821円である。東京都の1041円、大阪府の992円と比較すると大きな格差があることがわかる（厚生労働省b）。

技能実習生制度の枠組みを変えること、あるいは鹿児島県の最低賃金を引き上げることは、短期間では困難であるが、沖永良部島の島民は、技能実習生と島民とのコミュニケーションギャップを埋め、島を外国人技能実習生・特定技能外国人労働者にとって住みやすく、労働しやすい環境に変えていく試みを行っている。2020年1月には、島民の企画により、ベトナム語では、テトと呼ばれる旧正月を祝うイベントが若手農家らでつくる「エラブネクストファーマーズ」と県沖永良部事務所の共催で行われた（『南海日日新聞』2020年01月26日）（図4参照）。ルーツを島に持つ移住者の水嶋健氏は、Tシャツなどを用いた技能実習生と研修先の事業所とのコミュニケーションギャップを埋めるツール作りを行っている。ベトナム人実習生と日本人の事業主、従業員が、各自のTシャツにベトナム語と日本語で書かれたイラスト付き作業項目を、指で指し示し、仕事や生活での意思疎通の円滑化を図るというユニークなアイデアである（図5、図6参照）。水嶋氏は、技能実習生向けのTシャツ、『GINO-T（ギノティ）』の制作費を、クラウドファンディングで調達した（『REWADY FOR』2020年12月23日）。氏は、このようなTシャツのバージョンを様々な作業、多言語に広げていく準備を進めている。また、和泊町のアパレルショップ、居酒屋の主催により島内で技能実習生として働くベトナム人島民への古着提供会が行われた（『奄美群島南三島経済新聞』2022年2月1日）（図7参照）。賃金は、高くなくとも、住みやすく、働きやすい島、町の条件が形



図4 ベトナム式の乾杯で盛り上がる交流会
出所：『南海日日新聞』2020年01月26日



図5 「GINO-T」の使用イメージ
出所：『READY FOR』2020年12月23日



図6 「GINO-T」のコンセプト
出所：『READY FOR』2020年12月23日



図7 ベトナム人島民への古着提供会
出所：『奄美群島南三島経済新聞』2022年2月1日

成されれば、技能実習生、特定技能労働者の定着率は高まっていくであろう。

2) 沖永良部島のフィリピン人の労働・ビジネス

2022年12月10日より15日に渡り、沖永良部島に住むフィリピン人22名に対して、雇用、ビジネスを中心に聞き取り調査を行った。和泊町が、8名、知名町が、14名である。2021年12月現在の島のフィリピン人口、66人の三分の一にあたる。その調査結果が、表7である。

まず、居住地であるが、表7は、町と字（あざ）を示している。字とは、集落を意味する。図8は、地図にフィリピン人居住地を示したものである。和泊町においては、和泊、手々知名、和などの町の中心地に集中している。知名町のフィリピン人の居住地は分散している。田皆が、4人と比較的多い。

島に25年住む回答者コードGによると、町や島のフィリピン人同士が一同に集まることは、ほぼなく、フィリピン人によって運営される任意団体なども存在しない。リーダー的な人もいない。和泊町には、キリスト教の教会が二つあるが、そこでフィリピン人が集まって何かの活動をするということもない。パルワガン（paluwagan）と呼ばれる積み立て貯金を行う少人数のグループがいくつが存在するのみである。パルワガンは、「模合（もあい）」と呼ばれる島の庶民金融に似通っている。コードGのグループは、毎月2万円の積み立てをしており、13人が参加している。島には、10人程度が参加する他のパルワガンのグループも存在する。コンビニエンスストアやスーパーマーケットで働いているときに中国人やベトナム人をみかけることがしばしばあるが、フィリピン人と彼らとの交流はほとんどない。かつて、沖永良部島では、島に住む外国人のために日本語教室を開催していたが、現在は行っていない。外国人が仕事で忙しく参加できないためだ。約10年前に、日本語教室に通っていたときは、受講生が10名程度いた。島のフィリピン人の多くは、飲食店勤務で知り合った島出身の男性との結婚が、島に住むきっかけである。その他に、島に住むフィリピン人が、フィリピンに住む親戚や知り合いを、島の男性に紹介する場合もある。フィリピン人の中には、毎月5万円程度を母国に仕送りする者もいる。フィリピン人が土日も休まずに一日中働く原因の一つが、この送金であるという。

表8は、表7の平均年齢、性別、婚姻関係、現在と初来日時の在留資格、島での平均滞在年数を示したものである。調査を行ったフィリピン人の全員が女性で、平均48歳であった。1名の独身者を除き、全員が、日本人との結婚を経験しており、そのうち、1名が離婚している。調査時の在留資格は、20人が永住者、1名が定住者、1名が、6ヶ月毎の更新が必要な特定活動ビザの保有者であった。最初の来日時のビザは、興行が11人であった。スナックなどの接待を伴う飲食店での就労のために初めて来日し者が半数を占める。それとほぼ同数の10名が、配偶者ビザである。彼女らは、島に住むフィリピン人の紹介で島の男性とフィリピンで来日前に結婚した女性たちである。「ショーカイ」という日本語は、フィリピン人がタガログ語で会話する時にも頻繁に聞かれる言葉である。前述の特定活動ビザの1名を除く、永住者、定住者は、日本人と同様にどんな仕事にも就くことができる。島の平均滞在期間は、19.4年と20年に近い。

表7 沖永良部島のフィリピン人のプロフィール (2022年12月現在)

通し番号	回答者コード (フィリピン人)	町(字)	年齢 (2022年12月8日現在)	性別	婚姻区分	在留資格 (2022年12月8日現在)	最初の入国時在留資格	沖永良部島での滞在年数	職業	配偶者の仕事	配偶者の年齢 (2022年12月8日現在)
1	A	和泊(和泊)	57	女	結婚	永住	配偶者	24	梱包会社	n.d.	n.d.
2	B	和泊(和泊)	54	女	結婚	永住	興行	20	沖永良部島空港(土産屋・食堂のレジ、給仕)	建設労働者	54
3	C	和泊(和)	50	女	結婚	永住	配偶者	22	ホテル(清掃)	無職(郵便局を退職)	60
4	D	和泊(古里)	51	女	結婚	永住	興行	30	ニシムタ (スーパーレジ)	電気店経営	71
5	E	和泊(仁志)	59	女	結婚	永住	配偶者	22	Ric Mart (コンビニでのパン調理)	n.d.	66
6	F	和泊(手々知名)	41	女	結婚(別居)	永住	興行	19	介護	会社勤務	54
7	G	和泊(手々知名)	53	女	結婚	永住	興行	25	①スーパーのレジ②RIC Mart (コンビニのスタッフ)③居酒屋(調理)④ハンバーガーショップのスタッフ	建設労働者	55
8	H	和泊(手々知名)	47	女	結婚	永住	配偶者	25	介護	農家	66
9	I	知名(上城)	50	女	結婚	定住	興行	20	①農業労働②介護	無職(病氣)	73
10	J	知名(上城)	52	女	結婚	永住	興行	15	農家(サトウキビ)	農家	64
11	K	知名(屋子母)	50	女	結婚	永住	興行	31	①ホテル(厨房)②介護③スナック	無職(病氣)	67
12	L	知名(正名)	44	女	結婚	永住	興行	20	農家(ジャガイモ、サトウキビ)	農家	59
13	M	知名(知名)	40	女	結婚	永住	配偶者	21	A-Coop (スーパーレジ)	建設労働者	48
14	N	知名(田皆)	37	女	結婚	永住	配偶者	13	農家(ユリ、ジャガイモ、たばこ)	農家	62
15	O	知名(田皆)	43	女	結婚	永住	配偶者	21	農家(ユリ、ジャガイモ、たばこ)	農家	66
16	P	知名(田皆)	48	女	結婚	永住	配偶者	20	農家(サトウキビ)	農家	70
17	Q	知名(田皆)	44	女	結婚	永住	興行	16	①農家②スナック	農家	70
18	R	知名(瀬利寛)	48	女	結婚(死別)	永住	興行	22	介護	-	-
19	S	知名(瀬利寛)	40	女	独身(離婚)	特定活動	特定活動	2	介護	農家	-
20	T	知名(新城)	43	女	結婚	永住	配偶者	15	農家(ジャガイモ、牛)	農家	43
21	U	知名(久志棟)	55	女	離婚	永住	興行	27	農家(ユリ、サトウキビ)	農家	-
22	V	知名(上平川)	53	女	結婚	永住	配偶者	17	A-Coop (スーパーレジ)	自動車整備士	64

出所：著者の調査による

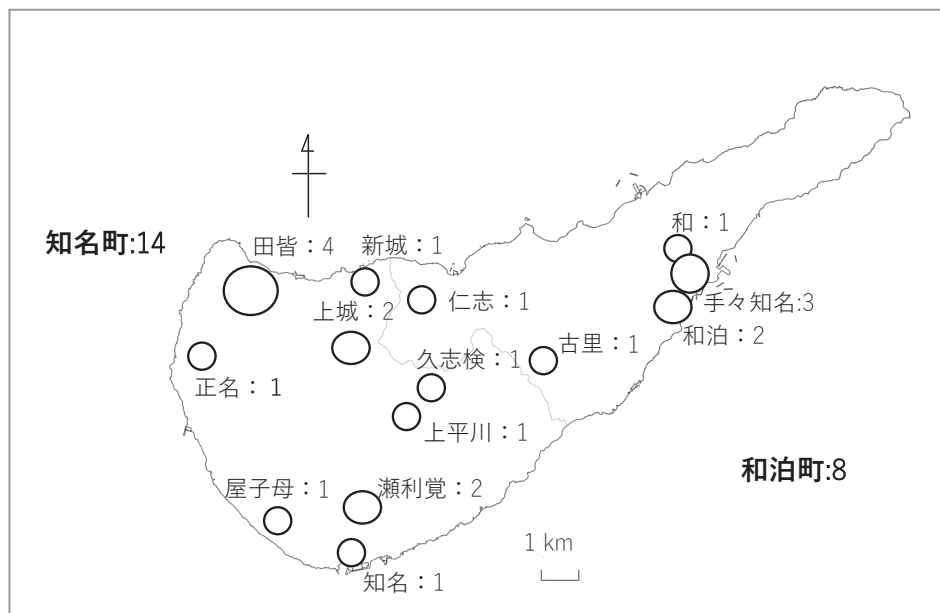


図8 沖永良部島のフィリピン人の居住地 (人)

出所：国土交通省国土交通省国土地理院ホームページ提供サービスにより調査データを用いて筆者作成

表9は、結婚をしている21人の配偶者に関する情報をまとめている。不明な者、2名を除く、19人の平均年齢は、58.5歳であった。フィリピン人女性の平均より10歳以上、上回っている。職業は、農家が11人と一番多く、建設労働者3名、電気店経営、自動車整備工が各1名、無職が4名で、1名が不明であった。

表10は、島のフィリピン人の仕事をまとめたものである。複数の仕事を掛け持ちしている者もあり、この表の数字は、延べ数を表している。農業が最も多く、8人、次にスーパー・コンビニでのレジや調理、6人、介護が、6人、夜間営業のスナックや居酒屋が、3人、ホテルの清掃などの業務が2人、その他、農業労働、空港での売店、梱包会社勤務がそれぞれ1名ずつであった。

夫の農業の手伝い、介護施設、大型スーパーおよびコンビニエンスストア、夜間営業のスナック・居酒屋が、島のフィリピン人の主要な仕事といえる。

高齢化が進む島には、多くの介護施設が存在する。図9は、その場所を示したものである。多くは、和泊町、知名町の中心にあるが、和泊町の国頭や知名町の田皆など、比較的町から離れた場所にも立地している。いくつかの介護施設では、複数のフィリピン人が働いている。

フィリピン人が働くスーパーマーケットは、大型スーパーが中心である。2町に1店ずつあるAコープ（農業協同組合の購買部門）と、各町に1店ずつある鹿児島市を本社とし、南九州で展開するニシムタFC（フランチャイズ）がこれにあたる。島の資本による中規模のスーパー「ディスカウント山口」（和泊町）で働く者もいる。島では、数少ないコンビニエンスストアである「RICマート和泊町」で働く者もいる。図10は、これらの店舗の位置を示している。

図11が示す通り、接待を伴う夜間営業の飲食店は、和泊町も知名町も、港の近辺に集中しているが、知名町の方が、店の数は圧倒的に多く、地理的にも集中している。聞き取り調査によると、調査時は、フィリピン人が経営する店は、島内で知名町の一店のみであった。これらの店は、定住フィリピン人の所得源として重要なだけでなく、客を通じて島内の雇用関連の情報を得る場となっている。

その他に、居酒屋（和泊町）、ハンバーガーショップ（和泊町）、ホテル（知名町）などのサービス産業で働く者もいる。

これらの多くのビジネスは、和泊町と知名町の中心部に集中している。島の内外フィリピン人を対象とした個人ビジネスを行う者もいる。

表8 沖永良部島のフィリピン人（22名）のプロフィール（2022年12月現在）

平均年齢	性別		婚姻関係		在留資格			初来日の在留資格			島での平均滞在期間（年）
	女性	男性	結婚	独身	永住	定住	特別活動	興行	配偶者	特定活動	
48	22	0	21 *うち死別1、別居1	1 *離婚	20	1	1	11	10	1	19.4

出所：著者の調査による

表9 沖永良部島のフィリピン人の配偶者（21人）の職種（2022年12月現在）

平均年齢 （19人） *不明2名分を除く	職業（21人）				
	農業	建設労働者	その他	無職	不明
58.5	11	3	2 *電気店経営 自動車整備工	4	1

出所：著者の調査による

表10 沖永良部島のフィリピン人（22人）の仕事（人）
（2022年12月現在） *複数回答

農業	スーパー・コンビニ	介護	スナック・居酒屋	ホテル	その他
8	6	6	3	2	3 農業労働 空港食堂・売店 梱包会社

出所：筆者の調査による



図9 沖永良部島の介護施設の位置

出所：タウンページを用いて筆者作成 <https://itp.ne.jp/>



図10 沖永良部島の大型スーパー、コンビニの位置

出所：タウンページを用いて筆者作成 <https://itp.ne.jp/>

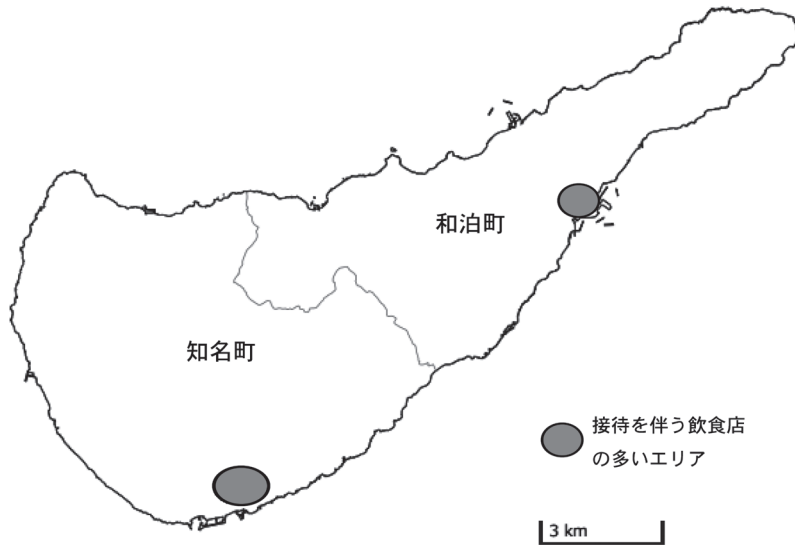


図11 夜間営業を行うスナックや居酒屋が集中する地区
出所：タウンページを用いて筆者作成 <https://itp.ne.jp/>

生業複合

定住フィリピン人の数人は、複数の仕事をかけもちしている。職種の異なる複数の仕事を組み合わせている。日本民俗学では生業複合論という視点が提示され、各地の生業を問いなおす研究が開始された（卯田 2017）。これは、稲作や畑作、漁撈、狩猟など、これまで個別に論じられてきた生業をいかに組み合わせながら生計を維持しているのかを明らかにするアプローチである。まさに、島のフィリピン人の一部は、職種にこだわらず生業複合を行って生計を立てているのである。

表7の、回答者コード、G、I、K、Qが、このケースに当てはまる。Gは、スーパーのレジ、コンビニのスタッフ、ハンバーガーショップ、居酒屋と、実に4つの仕事を掛け持ちしている。表10は、Gの一週間の仕事のスケジュールを示している。月曜日以外は、毎日、なんらかの仕事を行っている。Gによると、居酒屋は、様々な仕事の空き情報の収集の場である。Iは、農業労働と介護、Kは、ホテルの厨房、介護、夜間のスナック、Qは、夫の農業の手伝い以外にスナックで働いている。フィリピン人が、昼夜、職種に関わらず、生業複合を行うことは、人口減少、高齢化の進む離島の経済維持に対して大きな貢献をもたらしている。

表11 コードGの一週間の就労スケジュール(2022年12月現在)

時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00		コンビニ (9:00~13:00)		ハンバーガーショップ (10:00~14:00)			
10:00							
13:00							
13:30		スーパー (13:30 ~ 16:00)		スーパー (14:00 ~ 16:00)			
14:00							
15:30		居酒屋 (18:00~24:00)					
16:00							
18:00		*居酒屋では午前1時まで働くこともある					
24:00							

出所：調査により筆者作成

ディアスポラビジネス

数は少ないもののフィリピン人を対象とした個人ビジネスを行うものもいる。特筆すべきは、表7のコードTである。彼女の夫は、農業経営を行っている。農地に、バナナ、パパイヤ、キャッサバなどのフィリピン人が好む南方系の果物や根菜類も作付けしている。彼女は、これらの作物などを用いて、様々なビジネスを行っている。まずは、島内に住むフィリピン人向けのフィリピン料理の販売である。もうひとつのビジネスは、これらの沖永良部島のような温暖な気候の土地以外では生産できない作物を、関東地方を中心に国内のフィリピン人向けに販売することである。彼女は、農業関連ビジネス以外に、フィリピン人を対象として、フィリピンの航空券販売や送金ビジネスを行うオンライン企業の下請けをしている。彼女は、このように、島、全国、フィリピンのフィリピン人とネットワークを結びながら個人ビジネスを展開している。このようなビジネスは、グローバル化が進む世界で注目されるディアスポラビジネスと位置づけられる。ディアスポラとは、もとは、パレスチナを追われ離散したユダヤ人を指す言葉であったが、現在では、故郷を離れて暮らす他民族にも用いられるようになっており、ディアスポラを対象としたビジネスが世界で展開している(Kumar and Streenkamp 2013)。これらのビジネスの一例は、フィリピン人が好むハンバーガーを提

供し、世界展開するジョリビーである (Ibid.)。筆者は、ディアスポラビジネスは、このような巨大企業に限定されないと考える。ディアスポラが、小規模にしかも生業複合的にディアスポラビジネスを組み合わせるものも含まれると考える。コードTの事例はまさにこのケースに当てはまるといえる。

4. 沖永良部島の外国人労働の実態と将来展望

沖永良部島在住の22名のフィリピン人、水嶋氏、和泊町および知名町役場職員への聞き取り調査によって、沖永良部島においては、フィリピン人は、個人レベルで、地域社会や職場に定着していることもわかった。しかし、フィリピン人同士、日本人以外の国籍の島民との交流が希薄であることもわかった。ベトナム人技能実習生、特定技能外国人労働者に関しては、現時点では、日本人島民とのコミュニケーションギャップが問題であり、島の若者を中心にして、このギャップを埋める試みが始まっていることが確認できた。

調査の結果、フィリピン人は、すべてが女性で、ほぼ全員が、島の日本人と結婚しており、永住ビザまたは定住ビザを持ち、日本人と同様に自由に働けることがわかった。また、平均年齢は、48歳と比較的若く、一部は多くの仕事をかけもちし、昼夜、様々な仕事の「生業複合」を行っていることが明らかになった。彼女らは、農業、介護、スーパー・コンビニなどの商業、昼夜の飲食店島などの島の生活に密着した業種で就労している。人口減、高齢化が進む離島では、彼女らの存在は貴重である。今後、島のフィリピン人は、島に同化し、既存の生活関連のビジネスに雇用される段階から、島に対してフィリピン人の持つ強みを発信していく段階に移行することが期待される。沖永良部島では、まだ、萌芽の状態であるが、フィリピン人自身が、ユニークなビジネスを始めるケースが確認された。島の内外に住むフィリピン人を対象としたフィリピン人によるビジネスである。これは、故郷から離れていても自国の文化、自国に残した家族や親せきを思う海外移住者の気持ちがビジネスチャンスにつながる「ディアスポラビジネス」である。フィリピン料理の島のフィリピン人への宅配、関東地方などへの南方野菜・果物の出荷、フィリピンの航空券販売や送金を行うネットビジネスの下請けなどである。このようなビジネスは、島の内外の日本人、日本の企業と結びつくことによって新たなビジネスに発展することが期待できる。特に島で生産されているが日本人にはなじみがうすくフィリピン人を中心として利用されている農産物はチャンスが大きい。例えば、フィリピン人が好むサバ (saba) という調理用バナナは、フィリピンでは、スープに入れたり、大学芋風や春巻き風にしてデザートとして調理されている。このバナナを島内、家庭、飲食店でこのような形で利用することが可能である。同様の事例を積み重ねることによって島の食料自給率を高めることもできる。また、観光の目玉として売り込むことも可能である。島に住むフィリピン人の小規模なディアスポラビジネスを、町や国が支援し、島の地域振興プログラムに組み込むことも重要である。鹿児島県の大隅地方では、複数の定住フィリピン人が、モリンガの販売をディアスポラビジネスから日本人を対象にしたビジネスに展開している (Nishimura 2021)。20年から30年、島

に住み、島の社会経済に溶け込んで島の労働市場に貢献しているフィリピン人は、いまや、彼女らの文化やビジネススタイルを発信することによって島の地域振興に貢献する時代に来ているといえる。また、フィリピン人の血を引く2世代目の役割も期待される。彼らのうち、特に島に住む者は、親世代と協力して島の国際化、新しいビジネスの創設に貢献することが期待される。外国人による新しいビジネスやアイデアが発信される枠組みが、島民、町役場、島の内外の市民グループなどとのコラボレーションによって展開されることが期待される。

ベトナム人技能実習生に関しては、実習生の賃金は全国平均より低い鹿児島県の最低賃金を基準としているという現状、平均気温の高い島での花き生産が重労働であるなどの様々な条件により、島から逃避するベトナム人が存在する。このような条件を所与のものと考え、水嶋氏やその他の若者が行っているように少しでも住みやすい、働きやすい環境を島に作る必要がある。同じ業種であれば職場を選ぶことができる特定技能外国人労働者に対してはなおさらのことである。

フィリピン人、ベトナム人と並んで重要な中国人の労働に関する調査は、今後、行っていく予定である。和泊町の沖農園は、1990年代に、実習生を島に最初に受入れた。当時は、実習生は、すべて中国人であった。現在は、ベトナム人実習生を受入れている。中国人実習生からベトナム人実習生への切り替えの経緯などを、農園主に対して聞き取り調査を行う予定である。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、沖永良部島にお住まいのフィリピン人の方々、和泊町役場の職員の方々、知名町役場の方々、水嶋健様、その他の多くの島の方々の調査へのご理解、ご協力に心から感謝を申し上げます。なお、本研究はJSPS 科研費 20K12323の助成を受けたものです。

参考資料

文献

- 1) Kumar, Nirmalya and Steenkamp, Jan-Benedict E. M. (2013) "Diaspora marketing", Harvard Business Review, pp. 127-131.
- 2) Nishimura, Jo-Ann T, Nishimura, Satoru, and Hagino, Makoto (2021) "Filipino Workforce for Regional Economy: Some Remarks on Agriculture in Ohsumi Region, Japan", Keizaigaku-Ronshu, no. 97, pp. 47-105.
- 3) 卯田宗平 (2013) 『民博通信 2017』, no.156, p. 25.
<https://www.minpaku.ac.jp/sites/default/files/research/activity/publication/periodical/tsushin/pdf/tsushin156-10.pdf>
 (2023年2月23日閲覧)

オンライン資料 (新聞等)

- 1) 『奄美群島南三島経済新聞』「沖永良部島でベトナム人と日本人の交流会 古着きっかけ」2022年2月1日」
<https://amami-minamisantou.keizai.biz/headline/106/> (2022年5月1日閲覧)。
- 2) 『Withnews』「「実習生が逃げていく島」町民があえて監視をおかない「深い理由」」2018年11月19日
<https://withnews.jp/article/f0181119003qq0000000000000000G00110101qq000018372A> (2022年5月1日閲覧)。
- 3) 『南海日日新聞』「実習生招き春節交流会 ベトナム式乾杯で盛り上がる 沖永良部」2020年01月26日

沖永良部島における外国人労働をめぐる現状と将来展望

- <https://www.nankainn.com/news/local/%e5%ae%9f%e7%bf%92%e7%94%9f%e6%8b%9b%e3%81%8d%e6%98%a5%e7%af%80%e4%ba%a4%e6%b5%81%e4%bc%9a%e3%80%80%e3%83%99%e3%83%88%e3%83%8a%e3%83%a0%e5%bc%8f%e4%b9%be%e6%9d%af%e3%81%a7%e7%9b%9b%e3%82%8a%e4%b8%8a> (2022年5月1日閲覧)。
- 4) 『南海日日新聞』「国営地下ダム進捗84% 沖永良部」2020年05月22日
<https://www.nankainn.com/news/gvmnt-admin/%e5%9b%bd%e5%96%b6%e5%9c%b0%e4%b8%8b%e3%83%80%e3%83%a0%e9%80%b2%e6%8d%97%ef%bc%98%ef%bc%94%ef%bc%85-%e6%b2%96%e6%b0%b8%e8%89%af%e9%83%a8%e5%b3%b6> (2022年5月1日閲覧)。
- 5) 『READY FOR』「ベトナム人実習生の失踪・過労死・自死などを解決する“T シャツ” 開発」2020年12月23日
<https://readyfor.jp/projects/gino-t> (2022年5月1日閲覧)。

オンライン政府統計・資料

- 1) 厚生労働省 a 「配偶者の就労について」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001qu38-att/2r9852000001qu81.pdf> (2022年5月1日閲覧)。
- 2) 厚生労働省 b 「令和3年度地域別最低賃金改定状況」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/minimumichiran/ (2022年5月1日閲覧)。
- 3) 国土交通省国土地理院 『地理院地図 (電子国土 Web)』
<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0i0u0t0z0r0s0m0f1> (2022年5月1日閲覧)。
- 4) 総務省 「令和2年度国勢調査」
<https://www.e-stat.go.jp/statistics/00200521> (2022年5月1日閲覧)。
- 5) 法務省出入国在留管理局 「在留外国人統計」(2013年, 2014年, 2015年, 2016年, 2017年, 2018年, 2019年, 2020年, 2021年)
<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003147283> (2023年2月23日閲覧)。
- 6) 農林水産省 「わがマチ・わがムラ」
<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/> (2023年2月23日閲覧)

その他オンライン資料

- 1) 一般社団法人 おきのえらぶ島観光協会 『沖永良部島の紹介』
<http://www.okinoerabujima.info/about/#sightseeing-spots> (2022年5月1日閲覧)。
- 2) 公益財団法人 国際人材協力機構 『在留資格「特定技能」とは』
<https://www.jitco.or.jp/ja/skill/> (2022年5月1日閲覧)。
- 3) NTT 『タウンページ』
<http://itp.ne.jp> (2023年2月23日閲覧)。
- 4) 和泊町 『和泊町町勢要覧2021』
<https://www.town.wadamari.lg.jp/kikaku/wadomaricho/gaiyo/choseyoran.html> (2022年5月1日閲覧)。